

3 基本的視点

【視点1】子どもが楽しく遊び・学べる

子ども自身が楽しく遊ぶことができ、基本的な生活習慣を身につけ、勉強やお手伝いなどが行いやすい住まいをつくることが重要です。また、家族や地域とふれあうことができる住環境づくりも子どもが心豊かに育つうえで大切です。

遊び・学び

(1) 子どもの主体的な遊びや学びを引き出す

子どもは、住宅・住環境のなかでいろいろな遊びをして、多くのことを学んでいきます。まずは、小さい子どもが自分で自分のことをできるようにするために、子ども自身の使いやすさやしつけのしやすさなどに配慮しましょう。また、普段の生活のなかで、子どもの創造性や感性を引き出す工夫も大切です。

ポイント

子どもが安心して遊び、学ぶ場がある

- 子どもがリビング・ダイニングで勉強等をして過ごせるスペースの確保
- 子どもが遊ぶ庭やスペースの確保
- 上下階や隣家に対する防音対策（周囲の理解）
- 集合住宅内での子どもの遊び場の設置

子どもの創造性・感性を喚起する

- ★ 子どもの絵や写真等を飾れる場所の設置（展示機能の付加）
 - 回遊性のある間取りの採用
 - 日本の伝統的な様式、自然素材の採用
- ★ 住宅内で四季を感じられる工夫
 - ペットが飼える工夫

子どもが自分自身で身のまわりのことをしやすい

- 子どもの使いやすい建具の採用
- 子どもが手伝うことができるキッチンの広さの確保
- しつけがしやすく・子どもが使いやすいトイレの採用
- 子どもでも操作しやすい位置へのボタン・操作盤の設置

まわりの環境

- 樹木草花、田畑、虫や鳥など四季を五感で感じることができる
- 公園など屋外の遊び場が近くにある
- 子どもが文化・スポーツ・就業体験など様々な社会体験ができる機会がある

...すぐに対応できる内容を含む項目

子どもが安心して遊び、学ぶ場がある

子どもがリビング・ダイニングで勉強等をして過ごせるスペースの確保

子どもが小さい時期は、勉強などを親に教えてもらうことが多く、子ども部屋がある場合でも、リビング・ダイニングで勉強をすることが多いようです。リビング・ダイニングに勉強等をしてすごせる広さを確保した方がよいでしょう。

子どもが遊ぶ庭やスペースの確保

子どもをねらった犯罪の増加などにより、子どもだけで外で遊ぶことをためらう親も少なくないようです。親の目が届く庭や家のまわりに、子どもがおもいきり遊ぶことのできるスペースが確保されていると安心です。庭に砂場を設置したり、ウッドデッキをつくったりすることも考えられます。



子どもが遊ぶ砂場のある庭

コラム 屋根裏部屋等へのアコガレ (延藤安弘)

ユーコート()のK君は、今30才。「子どもの頃過ごしたユーコート体験を通して、今度自分で家をつくる機会があればどんな家に住みたいか？」という問いに対して、次のようにこたえました。

「ひとつはスケスケルックの玄関扉。自分の家がそうだったから。もうひとつは、動く畳。Kjさんの家のリビングにつづく6帖間の半分の3枚の畳は動く畳でした。昼子どもが遊ぶ時、夜大人が飲み会をする時に応じて変わるのがステキだった。3つ目は、最上階の家にあった屋根裏部屋。そーっとそこにもぐりこんで大好きな絵本をみるのが楽しかったから・・・」

子どもにとってありきたりの子ども部屋があればいいのではなく、子どもの心をワクワクドキドキさせる空間づくりが大切なのですネ。



スケスケルックの玄関扉



動く畳 いろいろに使える場を生み出す

ユーコート：京都の洛西ニュータウンにあるコーポラティブ住宅。48世帯の住み手が専門家との協同の計画、設計により1985年に竣工した。

上下階や隣家に対する防音対策(周囲の理解)

集合住宅において、子どものいる家庭の上下階への音に関するトラブルが多く発生しています。遮音床工法や遮音性能のある材料を採用し、遮音性能を高くすることを心がけましょう。また、住宅を選択する際に、1階や階下が玄関である場所など、階下に人がいない場所を優先することもトラブルを回避する方法の一つです。

壁についても同様に遮音性能のある材料を採用しましょう。また、空気伝播音の対策として、サッシなど外側開口部の防音性の確保を行います。ピアノ等も位置によって隣家への音の伝わり方が軽減できる場合があります。同じ大きさの音でも、近所の人とコミュニケーションがとれていたり、大きな音が出るときに事前連絡することで、解消できる場合もあります。

◎参考値：上下階に対する重量床衝撃音への配慮

子育て世帯に適した住宅としては、日本住宅性能表示基準の重量床衝撃音対策における、等級5以上の対策を講じるようにしましょう。

日本住宅性能表示基準 重量床衝撃音対策

重量床衝撃音対策等級	居室に係る上下階との界床の重量床衝撃音(重量のあるものの落下や足音の衝撃音)を遮断するため必要な対策の程度
等級5	特に優れた重量床衝撃音の遮断性能(特定の条件下でおおむね日本工業規格のLi,r,H -50 等級相当以上)を確保するため必要な対策が講じられている
等級4	優れた重量床衝撃音の遮断性能(特定の条件下でおおむね日本工業規格のLi,r,H -55 等級相当以上)を確保するため必要な対策が講じられている
等級3	基本的な重量床衝撃音の遮断性能(特定の条件下でおおむね日本工業規格のLi,r,H -60 等級相当以上)を確保するため必要な対策が講じられている
等級2	やや低い重量床衝撃音の遮断性能(特定の条件下でおおむね日本工業規格のLi,r,H -65 等級相当以上)を確保するため必要な対策が講じられている
等級1	その他

コラム 絵本による集合住宅の生活騒音への気づきを促す（延藤安弘）

集合住宅は上下の生活騒音が気になることがあります。ドイツの絵本『わがまちぶらり』は文字のない絵本ですが、その中に集合住宅の縦の断面をスパッと切った画面がみられます。結婚ほやほやのおうち、バルコニーを緑の園にしているおうち等々の中にまじって、こんなのがあります。上の階の子どもたちがビートルズの音楽にあわせて踊っているのを、下の階のおばさんがほうきの柄でつついてケンセイしています。これを見る子どもは、何度かこの絵本をめくっているうちにある時ふと気づきます「ああ、こんなことすると迷惑かけるんだ」と。絵本は内なる気づきを促してくれます。

ところで、「家やまちの絵本」を子どもも大人も創作することを奨める楽しいコンクールがあります。これまで3回ひらかれました。次のホームページを参考に住まいの絵本づくりをしてみませんか？

<http://sumai.judanren.or.jp/ehon/>



マンションのくらしぶりが一目瞭然



上階の生活騒音をケンセイする下の階のおばさん

集合住宅内での子どもの遊び場の設置

集合住宅においては、上下近隣に対する騒音への配慮から、子どもが住宅内でおもいきり遊べない場合が多くあります。親の目が届く位置に子どもが遊ぶことのできるプレイロットがあるとよいでしょう。また、雨の日でも遊べる子ども専用の屋内遊び場（キッズルーム）を設置することも有効です。ただし、管理人が配置されていない又は不在の時間帯における管理のあり方について十分検討することが必要です。

庭や集合住宅のアプローチに子どもが水遊びできるスペースがあるとよりよいでしょう。

コラム 子どもが出あい遊びあえるみんなの庭（延藤安弘）

ユーコートの中庭は築山があり、池があり、木立があり、土のままの広場から成っています。オニゴッコや池遊びなどの日常的な楽しさと夏まつりやコンサート等の非日常的な喜びを子どもたちは体験できました。彼らの思い出は、中庭での異年齢集団にもまれながらの多様な心楽しい体験に支えられています。子ども時代に、身近な環境で、よその大人、異年齢の子ども、同年齢の子ども等との出会いと思いがけない体験がふりつると、生涯心にのこる豊かな思い出となり、ひとりひとり生きる上での大切な感性が育まれていきます。



中庭にある池のそうじは、子どもにとって楽しい遊び同然のこと。
わずらわしいことを楽しいことにかえることが、自然を生かした子育て環境づくりでは大切です。

子どもの創造性・感性を喚起する

★ 子どもの絵や写真等を飾れる場所の設置 (展示機能の付加)

一面広い壁になってしまう空間については、子どもが描いた絵を飾れるスペースにするとよいでしょう。作品を飾ることで、子どもの創造の意欲を高めることができます。

回遊性のある間取りの採用

子どもが家のなかで、じっとしていることは難しいものです。回遊性のある間取りを採用することで、子どもがのびのびと自由に歩きまわれる空間が生まれます。



壁への展示機能の付加

日本の伝統的な様式、自然素材の採用

畳、ふすま・障子、瓦など日本の伝統的な様式を取り入れ、日本の文化や伝統について、子どもの頃から身近に感じられる工夫をするとよいでしょう。近年、しっくい、珪藻土、和紙などの自然素材も種類が豊富になっているため、これらを数種類取り入れることにより、子どもが色々体験できるとよいでしょう。

★ 住宅内で四季を感じられる工夫

子どもの感性を喚起するために、室内における緑の配置や、外の景色を感じられる窓の設置などにより四季の変化を感じさせることが大切です。バルコニーへの水栓の設置など、植物を栽培できる工夫があるとよいでしょう。



住宅内で四季を感じる工夫

ペットが飼える工夫

ペットを飼うことは子どもの情操教育に良い影響があるとされています。集合住宅においてもトラブルなくペットが飼えるような工夫（騒音、鳴き声、におい対策など）がされているとよいでしょう。

ペット専用の入り口の設置などペットと一緒に暮らす工夫も考えられます。

コラム ペットが飼える工夫（延藤安弘）

えんどうやすひろ作，むかいながまさ絵『こねこのトトのはなし』は、絵本を通して集合住宅でペットを飼う時の大切なルールなどが描かれています。そこにはこねこをめぐるエピソードが楽しくつづられるとともに、飼い方のマナーが次のように示されています。



『こねこのトトのはなし』
えんどうやすひろ作
むかいながまさ絵

子どもが自分自身で身のまわりのことをしやすい

子どもの使いやすい建具の採用

子どもが自発的に行動できるように、建具は、子どもの使いやすさに配慮しましょう。

扉については、少ない力で開閉可能なプッシュハンドル式やレバー式のもの、又は引き戸を採用するとよいでしょう。

スイッチについては、設置する位置を低くしましょう。プッシュ式のスイッチを採用するとより子どもが使いやすいでしょう。

水栓は、レバー式のものを採用するとよいでしょう。



子どもが使いやすい高さ
1 mスイッチ

子どもが手伝うことができるキッチンの広さの確保

子どもの成長とともに、キッチンでの手伝いができるようになります。親から子へ料理の仕方などを教えることができる機会でもあります。親子が並んで作業のできるキッチンの広さを確保できるとよいでしょう。

しつけがやすく・子どもが使いやすいトイレの採用

幼少期の子どもにトイレの使い方を教えるときに、親子が並んで入れる程度の広さがあるとよいでしょう。

小さい子どもは、トイレの本体タンクに付属している手洗いに手が届きません。トイレ内に手洗いを設けるか、トイレのすぐ近くに洗面所があるとよいでしょう。

子どもでも操作しやすい位置へのボタン・操作盤の設置

集合住宅のエレベーターにおいては、子どもが操作しやすいように、低い位置にもボタンや操作盤を設置するとよいでしょう。また、オートロックについても同様の配慮があるとよいでしょう。

コラム 食事を楽しく一緒に作りましょう！（小野全子）

居間と一体となった台所では、子どもたちも一緒にお手伝いができます。そのため、台所を設計する際は、2人以上で作業のできるスペースを確保することに気をつけています。2列型の間の中を1 m確保すると2人で作業しやすい空間になります。

また、見渡せる台所になることで、常にきれいにしておくことを意識することになります。独立型ですと台所の整理整頓は後回しになりがちですが、オープン型では、日頃の心がけが必要です。住まい全体の手入れにもつながるので、最近、オープン型のキッチンが増えているのはとてもいい傾向であると思っています。

樹木草花、田畑、虫や鳥など四季を五感で感じることができる

自宅の庭や集合住宅の共用の庭などに、花壇を設置したり、実のなる樹木を植えたりすることで、昆虫や鳥が訪れるようになり、花の香りや鳥の鳴き声などを五感で感じることができます。また、落葉樹、家庭菜園や周囲の河川・田畑なども、四季を感じ、自然とふれあえる空間となります。

公園など屋外の遊び場が近くにある

子どもの健全な発育のためにも、外でのびのびと遊ぶことが大切です。公園、プレイパーク、森や親水空間など、安全な屋外の遊び場が近くにあるとよいでしょう。

子どもが文化・スポーツ・就業体験など様々な社会体験ができる機会がある

芸術文化、伝統文化、わが国で伝承されてきた遊びや民話、スポーツ、レクリエーション、職業体験など、子どもが様々な社会体験をすることは、子どもの心を豊かにします。また、こうした活動に子どもたちが主体的に参画することにより、子どもの自立心や社会性を養うことができます。こうした地域活動の有無も子育てにとって重要なポイントの一つです。

コラム 目の高さに自然があると・・・(延藤安弘)

宇治のあじろぎ横丁()のエピソード：背の高いマンションから2階建ての家に引っ越してきた小学校4年生の女の子は、引っ越してきた春のある日、勉強部屋の窓の外にコブシの木が真白な花を咲かせているのをみました。夏のある日に実をつけているのを見ました。秋のある日、彼女の眼前でパチンと音をたてて実のはじけました。その瞬間、彼女はお母さんにこうつぶやきました。「ここには眼の高さに自然があるのネ」と。

子どもは五感をフル動員して、センス・オブ・ワンダー(自然の不思議さへの驚きの心)を発達させていくものです。



3000㎡の敷地に70種類の花木を、17世帯の住み手たちは育てました。

あじろぎ横丁：京都の宇治市にあるコーポラティブ住宅。17世帯の住み手が専門家との協同の計画、設計により1983年に竣工した。

ふれあい

(1) 家族間でのふれあいがある

子どもの成長にとって、家族のふれあいはとても大切なものです。家族間のコミュニケーション不足が指摘されている昨今、お互いの気配を自然に感じられる空間が求められています。

ポイント

家族が集まる場所を確保する

- リビング、ダイニング、キッチンの間仕切りをとった広いスペースの確保
- 親や子どものスペースをリビングの中に確保
- 親子一緒に寝ることのできる寝室の広さの確保

自然に家族を感じられる工夫がある

- 子どもの様子が確認しやすい間取りの工夫
- 家族の気配が感じられる建具の採用
- リビング内吹き抜け空間の設置

家族が集まる場所を確保する

リビング、ダイニング、キッチンの間仕切りをとった広いスペースの確保

リビング、ダイニング、キッチンにおいては、間仕切りをとって広いスペースを確保し、家族が一堂に集まることができる団らんしやすい空間づくりを工夫しましょう。キッチンからでも、調理や後片付けをしながら団らんに参加できると家族の一体感が一層強まります。また、家族一緒でも、各々でも使うことができるリビング・ダイニング兼用の大きなテーブルを設置するのもよいでしょう。



リビング、ダイニング、キッチンの間仕切りをとった広いスペース



家族皆で使える大きなテーブル

親や子どものスペースをリビングの中に確保

親や子どものスペースをリビングの一面に配置することにより、家族の気配を感じながら、それぞれの遊びや勉強、仕事を行う空間とすることができます。

親子一緒に寝ることのできる寝室の広さの確保

子どもが小さいときは、親と一緒に寝る場合が多くあります。親子が一緒に寝ることのできる寝室の広さが必要です。



リビング・ダイニング内の親のスペース、子どものスペース

コラム 居間で遊んだり、仕事をしようよ！（小野全子）

子どもたちは個室で勉強するのではなく、家族みんなの集まる居間の机で勉強するのが望ましいと思います。大きめの机を居間の中心におきます。ここは、子どもの勉強スペースとしてだけでなく、親の仕事や家事などの作業スペースにも使われます。洗濯物をたたんだり、新聞を切り抜いたり。家族みんなの団らんの場として机が役立ちます。仕上げ材としては、床に、コルクタイルを使うこともひとつの案です。壁には、珪藻土系の塗り壁、天井には、あたたかみがあり、素材の香りがする桧をお勧めします。コルクタイルは、足ざわりがよいだけでなく、耐水性もありますので、手入れの負担も少なく、家事軽減にも役立ちます。壁の一部分をコルクタイルにしているいろいろなものを飾っても楽しいと思います。また、天井の桧の香りは心が安らぎます。居間からは木々の緑が見えて、四季折々の花が楽しめるような庭があったらよいと思います。インナーバルコニーなど外部の居間のような空間もおもしろいと思います。マンションにおいてもバルコニーを広めにとったり、矩形に確保し、テーブルと椅子をおくとよいでしょう。床材を工夫することで、はだしでも遊べる空間にしたいものです。

自然に家族を感じられる工夫がある

子どもの様子が確認しやすい間取りの工夫

子どもが大きくなるとともに、反抗期など親の干渉を煩わしく思う時期があります。子どもが帰ってきたときに、様子を確認できるように、玄関からリビングを通過して子どもの部屋まで行くような間取りにすることが大切です。

家族の気配を感じられる建具の採用

家のどこにいても家族の気配を感じられるよう、空間を仕切る建具として障子・欄間・ガラスなど、音や光がとおる素材を採用するとよいでしょう。

リビング内吹き抜け空間の設置

2階建の住宅においては、違う階で家族が生活していると、どうしてもコミュニケーションが少なくなりがちです。リビング内に吹き抜け空間を設置するなど、2階の各居室と程良い距離でお互いの気配を感じとる工夫があるとよいでしょう。



リビング内吹き抜け空間

(2) 地域とふれあう機会がある

子育て世帯にとって、地域での支え合いが必要となることが多くあります。近隣住民とのコミュニケーションの充実が図れるとよいでしょう。

ポイント

まわりの環境

- 自治会・子ども会・公民館行事・お祭りなど地域での交流を生む機会がある
- 集合住宅の敷地内に住民のふれあいの場が設置されている
- 集合住宅内で情報交換をするしくみがある

まわりの環境

自治会・子ども会・公民館行事・お祭りなど地域での交流を生む機会がある

異年齢や集団での屋外遊びが減少し、遊び方を知らない子どもが増えています。異年齢の人や地域住民とのつながりを持つことができる、自治会・子ども会・公民館行事・お祭りなどの活動が活発に行われていることも重要なポイントの一つです。

集合住宅の敷地内に住民のふれあいの場が設置されている

プレイロットや児童遊園などは集合住宅に住む人同士のふれあいの場でもあります。共用廊下やエントランスにおいても住民同士のふれあいのしかけがあるとよいでしょう。共同菜園などがあると子どもにとっても楽しく豊かな自然とふれあうことができ、住民同士の交流も深まります。

集合住宅内で情報交換をするしくみがある

集合住宅において、日常生活の中で顔を会わせる機会は意外と少ないものです。掲示板、住民向けのホームページ、回覧板、管理組合の会合などを通じて、子育て情報の共有をしたり、不要となった子ども用品の貸し借りをしたりするしくみがあるとよいでしょう。



手づくりのおみこしを
みんなでかついで地域をねり歩く



「紙芝居おじさん」が中庭にあらわれる

コラム プレーパークの可能性（小松尚）

現代の子どもの遊びは、ゲームを代表にした個人あそびや室内遊びが中心で、外で遊ぶことが少なくなっているのは、普段の街の様子を見れば一目瞭然です。今や、外での遊び方を知らないといった方が適切かもしれません。

このような社会状況や屋外での子どもの安全確保も不安視される中、プレーパークが注目されています。プレーパークは、「けがと弁当は自分持ち」を合い言葉に1970年代から各地で有志が空き地や雑木林で始めた遊び場です。最近では行政が開設する例もでてきました。

子どもたちの日常的な利用を考えると、プレーパークでの遊びの内容とともに立地は重要です。子どもたちの徒歩圏内にあると、日常的な利用が期待できます。

また、プレーパークでは、子どもの安全と創造的な遊びを指南できるプレーリーダーの存在が重要です。信頼できる大人との遊びを通じた交流は、子どもたちの社会力や対人関係への能力を豊かにしていくことと思われれます。

【視点2】親にとって子育てがしやすい

子育て期の家事負担を軽減する住まいづくりは、親の心身の健康を確保することはもとより、子どもとの時間を十分に確保したり、仕事との両立を図るために重要です。

便利

(1) 家事・育児がしやすい

子育て期の親には、多くのストレスがかかります。家事・育児を行う上で利便性の高い設備を採用し、家事・育児が効率よく行えるような動線を確保することで、親のストレスを軽減することが大切です。

ポイント

家事・育児負担を軽減する設備がある

床・壁等における汚れの落としやすい素材の採用

★ 修繕しやすい建具・素材の採用

屋外水栓や玄関付近の手洗い場の設置

集合住宅敷地内への保育所、託児所等の保育施設の併設

家事・育児を想定した動線及びスペースを確保する

家事のしやすい動線の確保

雨の日に洗濯物が干せる設備やスペースの確保

集合住宅における玄関アプローチなどへのスロープの設置

まわりの環境

医療機関が近くにある

子どもが外出しやすいまちである

子どもを預ける施設・サービスがある

育児仲間をつくったり、育児の相談ができる場所がある

...すぐに対応できる内容を含む項目

家事・育児負担を軽減する設備がある

床・壁等における汚れの落としやすい素材の採用

子どもは、壁や床を汚してしまうものです。防汚仕様の建材を採用したり、防汚仕様の仕上げを施したりするとよいでしょう。

★ 修繕しやすい建具・素材の採用

ふすまや障子など、子どものいたずら等により破損が多く見込まれる素材については、張替えが容易なふすま・障子など、修繕のしやすい建具を採用しましょう。最近では、破れにくい障子紙・ふすま紙等も出ており、破損しづらい素材を採用するのもよいでしょう。

ただし、破れた障子やふすまの張替えなどは子どもと一緒に修繕させることが大切です。

屋外水栓や玄関付近の手洗い場の設置

子どもは汚れて外から帰ってくることが多くあります。靴の泥落としや外で遊具などを洗うためにも、屋外水栓があると汚れを家の中まで持ち込まないため便利です。また、玄関の近くに手洗いカウンターがあると、子どもが帰って来てすぐに手等を洗うことができ便利です。

集合住宅においては、玄関近くの共用部分に手洗い場を設置するとよいでしょう。



玄関横手洗い場



集合住宅玄関前手洗い場

集合住宅敷地内への保育所、託児所等の保育施設の併設

集合住宅の共用部分、敷地内テナントに保育所、託児所を併設すると親にとっては大変便利です。しかし、利用者を集合住宅内に限定することで、託児料も割高となり、利用者の減少を招き、運営も厳しくなることが多くあります。保育所や託児所を併設する場合は、地域に開放的な施設にするなど、集合住宅内の居住者の合意形成や経営面の配慮も大切です。



マンション敷地内子育て支援施設

家事・育児を想定した動線及びスペースを確保する

家事のしやすい動線の確保

家事や育児を効率的に行うために、キッチンや浴室などの水まわりやリビングなど、関係する各室を家事の手順や動線を考えて機能的に配置するとよいでしょう。

雨の日に洗濯物が干せる設備やスペースの確保

子育て世帯は洗濯物の量が多くなります。乾燥機付きの浴室の採用又は、乾燥機付きの洗濯機の設置など、雨の日に洗濯物が干せる設備やスペースがあると便利です。



洗濯物が干せる浴室

集合住宅における玄関アプローチなどへのスロープの設置

集合住宅における玄関アプローチなどの段差は、ベビーカーでの移動の際に大変不便です。高低差のあるアプローチにはスロープを設置しましょう。



玄関アプローチのスロープ

まわりの環境

医療機関が近くにある

子どもは急な体調不良を起こしがちです。特に、乳幼児期の子どもの体調変化はとても心配なものです。すぐに駆けつけることができる医療機関があるとよいでしょう。夜間・休日などの小児救急診療体制が整備されているとより安心です。

子どもが外出しやすいまちである

エレベーターが広い、ベビーカーが配備されている、授乳スペースがある、子ども向けのトイレがある、子どもが利用できる高さの手洗いがあ、畳のスペースがあるなど、子連れで利用しやすい公共施設・店舗・飲食店があるとよいでしょう。これらの施設マップがあると便利です。

また、子どもが公共交通機関を利用して通学するケースもふまえて、周辺の公共交通機関や学校等との位置関係も立地の選定ポイントの一つです。

子どもを預ける施設・サービスがある

保育所や託児所については、送迎のしやすさ、急病時の対応のしやすさから、自宅の近く、もしくは駅周辺や企業内など通勤経路にあると便利です。一時保育やリフレッシュ保育など不定期に子どもを預けることができる保育園・幼稚園や、放課後児童クラブや放課後子ども教室を開設する自治体やNPOが増えています。

また、施設だけでなく、託児サービスを行う事業者やNPO、登録制の公的機関であるファミリーサポートセンターなどもあります。これらの施設マップやサービス一覧が事前に用意されていると便利です。

育児仲間をつったり、育児の相談ができる場所がある

子育て支援センター、公民館、児童館、保健センター、公園等で、育児仲間をついたり、専門家に育児の相談ができる場所があると安心です。自治体等が主催するイベントの他、子育てNPO、保護者自身が運営する子育てサークルや子ども会など、子育て仲間の様々な活動が活発に行われている地区であると安心です。

コラム 子育て世代の情報交換の場（小松尚）

核家族化や日常的な交流（井戸端会議）の減少、コミュニティ活動が成立しにくくなっている今日、一息つく暇もない子育てに追われて、精神的負担や孤立感で悩んでいる親は少なくありません。

近年、各地の集会所や公民館などを使って、子育てを終えた方や有志が自発的に子育て支援活動（サークル）を実施しています。遊び道具が整った公園や公共施設だけでなく、親子で自宅から歩いていける距離（徒歩圏）に、子どもを安全に遊ばせながら子育て中の親同士が情報交換や悩みを打ち明けることができる場所があると、閉じこもりがちな親子の日常的な外出の機会になり、地域の親同士のつながりも期待できます。

このような活動団体の多くは、経済的問題や適切な場所の確保の問題を抱えており、またどのようにニーズに応えるべきなのか試行錯誤している場合も多いようです。その一方で、「つどいの広場事業」など行政も各種支援事業を整備しつつあります。意欲ある活動団体と行政の施策をマッチングする仕組みづくりが期待されます。

(2) 収納が適切な場所にある

収納スペースを確保することで、育児に必要なもの等の整理がつき、育児がしやすくなります。また、収納の利用により、床に散乱した物による子どものつまずきや誤飲などの事故を減らすことができます。

ポイント

子どもの成長に合わせた収納を確保する

増えてくる子どものモノの収納スペースの確保

★ 多彩な収納の工夫（ロフト、屋根裏の利用、簡易収納の利用等）

自転車置き場の確保

育児のしやすい収納を確保する

キッチン収納の確保

リビング収納の設置

洗面所、浴室周辺の収納場所の確保

屋外で使用する遊具やベビーカーなどの収納スペースの確保

...すぐに対応できる内容を含む項目

子どもの成長に合わせた収納を確保する

増えてくる子どものモノの収納スペースの確保

子どもの成長とともに、収納する靴や服も大きくなります。また、子どもの作品など子どもに関係する収納物はどんどん増えていきます。子どもの成長後の収納を考慮し、余裕を持って収納スペースを確保することが大切です。

★ 多彩な収納の工夫(ロフト、屋根裏の利用、簡易収納の利用等)

年に数回しか使用しないもののために、ロフトや屋根裏等のデッドスペースをうまく活かした収納スペースを確保するとよいでしょう。

また、子どもの成長により必要な時期や必要な場所が限定されている場合は、可動式収納や仮設収納で補うとよいでしょう。

自転車置き場の確保

子どもの多くが自転車を持ちます。子どもの人数の増加などにより、玄関ポーチが自転車で埋まってしまうこともあります。あらかじめ、自転車置き場専用のスペースを確保しておくといよいでしょう。

集合住宅においては、各住宅につき複数台を置くことができる自転車置き場を設置するとよいでしょう。また、アルコーブを設置することで、自転車や三輪車を置くことができます。

育児のしやすい収納を確保する

キッチン収納の確保

キッチンは家事の中心になる空間であり、快適に調理や片付けの作業を行うためにも、できるだけ多くの収納スペースを確保しましょう。刃物など危ない器具が多く収納される箇所は、扉にチャイルドロックを付けるとよいでしょう。また、収納場所が家族の誰にでも分かるような工夫があるとよいでしょう。

リビング収納の設置

乳幼児期においては、リビングが子どもの活動の中心となります。遊びや勉強だけではなく、オムツ替えや着替えなどもリビングで行うことが多いことから、リビングにオムツや衣類の収納があると便利です。ただし、子どもの成長とともに、活動場所が子ども部屋などに移動することもあるため、簡易な収納で対応してもよいでしょう。



リビング内収納の工夫

コラム 居間にあふれたものは一体どこへ・・・？（小野全子）

居間の収納は欠かせません。子どもが遊んだ後、自分たちで片づけができるように、引っ張り出したBOXにおもちゃを収納できる工夫が必要です。どこに何をいれるかも子どもたち自身で決めるのも楽しいものです。使った後は必ずしまってから寝る、あるいは、食事に移るといった習慣が大切ですが、ある一角を子どものためのスペースとし、子どもの遊び道具を置いておくということも必要だと思います。また、絵本や思い出のアルバムなどは、子どもでも取り出せる高さに設置された棚に収納しましょう。整理整頓は大人になってからも悩んでしまうことですが、子どもの頃からこのような習慣をつけてあげることで、子ども自身の成長に役立ちます。

洗面所、浴室周辺の収納場所の確保

乳幼児期における入浴は、なかなか子どもから目が離せないため、脱衣スペース（洗面所）に収納があると便利です。また、家族の下着をそれぞれ入れるスペースがあると、着衣・脱衣から洗濯・収納まで効率的に行うことができます。

屋外で使用する遊具やベビーカーなどの収納スペースの確保

子育て期においては、屋外で使用するものがたくさんあります。子どもの遊具やベビーカーなど頻繁に使用するものについては、玄関内収納や集合住宅におけるアルコーブの設置など玄関まわりの収納スペースを多く確保することが大切です。

年に数回しか使用しないもののために、戸建住宅においては屋外収納スペースを、集合住宅においては各戸ごとにトランクルームが設置されるとよいでしょう。



洗面所周辺の収納

◎参考値：収納スペースの確保

マンションについては、「収納率8%以上の確保が望ましい」とされています。

収納率＝「床から天井まで通っている収納スペースの面積」÷「住戸専用部分面積」

(すみだ子育て支援マンション認定基準／東京都墨田区)

【視点3】子どもの成長に合わせる

子どもの誕生や成長による空間の広さや使い方の変化をあらかじめ想定し、対応できる住宅・住環境づくりが大切です。

変化

(1)子どもの変化に合わせて変更ができる

子どもの成長とともに、子ども部屋の設置など子どものプライベートな空間が必要となります。子どもの人数や子どもの成長をあらかじめ想定し、変更が可能な住宅を設計もしくは選択することが大切です。

ポイント

子どもの人数や成長の変化に備える

- 可変性のある間仕切りの採用
- 可変性のある（リフォームのしやすい）住宅の設計・選択
- 余裕のある居室・敷地の確保

子どもの人数や成長の変化に合わせて住み替える

- 円滑な住み替えへの配慮

子どもの人数や成長の変化に備える

可変性のある間仕切りの採用

スライドドアや可動式の間仕切りの採用などで、子どもの成長に従い子ども部屋を独立させることを可能にしておくといでしょう。子どもの人数が変化した場合においても、間仕切りなどを活用することで対応が可能です。



可変式間仕切り

可変性のある(リフォームのしやすい)住宅の設計・選択

あらかじめ細かく個々の部屋の役割を限定してしまうと、子どもの成長や人数の変化により使いにくいものとなってしまいます。よりシンプルな設計を心がけるとよいでしょう。



余裕のある居室・敷地の確保

子どもの成長とともに、独立した子ども部屋など、新たな居室が必要になります。あらかじめ、余裕をもった居室数を確保しておきましょう。

また、増築の可能性もでてくるため、余裕をもった敷地を確保できるとよいでしょう。

子どもの人数や成長の変化に合わせて住み替える

円滑な住み替えへの配慮

家族数の変化や子どもの成長に合わせて、住み替えを行う考え方もあります。子どもが学校に通う年齢になると、学区の変更なども係わってくるため、住み替えを考える場合は、あらかじめ、周辺での住み替えの可能性を確認しておくといよいでしょう。大規模な集合住宅においては、幾つかの間取りを計画し、家族の変化による集合住宅内での住み替えを想定しておくことも考えられます。

また、家族の変化に合わせて円滑に住み替えができるような情報提供等のしくみがあるとよいでしょう。

【視点4】安全・安心で健やかに暮らせる

子どもの事故やケガなど、様々な危険をできるだけ防止するとともに、犯罪や災害などから子どもを守り、安全で安心な住宅・住環境をつくる必要があります。また、子どもが健やかに育つよう、健康に配慮した住まいづくりも大切です。

安全・安心

(1) 事故を防止する

住宅内における子どもの不慮の事故は増加傾向にあります。また、乳幼児においては、家庭における不慮の事故死が多くを占めています。

子どもにとってどのような危険があるかを把握し、住宅内でおこる事故をできるだけ防ぐことが大切です。ただし、行き過ぎた安全対策は、子どもの危険に対する学習機会を損なうことにもなります。過度な配慮ではなく、大きな事故へつながる危険因子を取り除くことを優先的に行う必要があります。

ポイント

子どもの転倒及び衝突事故を防止する

- ★ 滑りにくい床仕上げ、弾力性のある床材の採用など転倒時の危険防止
- ★ 柱の面取り加工、ドアストッパーの採用など衝突時の危険防止
 - 段差のバリアフリー化
 - 踊り場や手すりの設置などによる階段における転倒事故防止

子どもの危険箇所進入などによる不慮の事故を防止する

- ★ 危険箇所へのチャイルドフェンス等の設置
- ★ コンセントの高い位置への設置、カバーの採用など安全性への配慮
- ★ ドア等による指挟み防止
 - 熱くなりにくい設備の採用やコンロへのチャイルドロックなど火傷の防止
- ★ 転落危険箇所における手すりの設置及び足がかりを生じさせない工夫

まわりの環境

- 周辺の交通量があまり多くない
- 周辺の道路において歩車が分離されている
- 地域住民や保護者による交通安全活動がある
- 子ども安全マップ等を利用する・作成する
- 公園や学校等が地域から温かく見守られている

...すぐに対応できる内容を含む項目

子どもの転倒及び衝突事故を防止する

★ 滑りにくい床仕上げ、弾力性のある床材の採用など転倒時の危険防止

子どもの幼少期においては、転倒が大きなケガにつながります。床仕上げについては、防滑性に配慮したものを採用しましょう。特に浴室や階段など、転倒しやすい場所においては、滑り止め等を設置するとよいでしょう。脱衣所においては、コルクタイルなど滑りにくく、耐水性のある素材を採用するとよいでしょう。

また、転倒時の衝撃を少なくするために、弾力性のある床材を採用しましょう。タイルカーペット、畳みなど弾力性があり、取り外し機能を備えた床材を採用すると、短期間における対応が可能です。

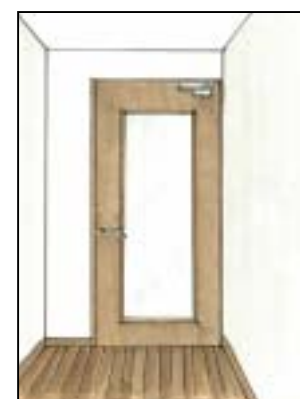
★ 柱の面取り加工、ドアストッパーの採用など衝突時の危険防止

転倒などで衝突した際に、大きなけがを招かないために、部屋隅部に柱等が出ないような室内設計を心がけ、柱の面取り加工をするとよいでしょう。既存住宅においては、角へのクッションカバーを装着することで対応できます。

扉の突然の開閉による衝突事故を回避するため、扉を開けたまま固定するドアストッパーや、開閉を緩やかにするドアクローザーを採用しましょう。また、ガラスや障子など、扉向こうの人の気配がわかる素材を採用するとよいでしょう。



柱の面取り



ドアクローザー
ガラス扉

段差のバリアフリー化

子どもにとって微妙な段差は認識しづらいものです。転倒を防止するためにも段差のないバリアフリー構造となっていることが重要です。

ただし、上がり框については、外の汚れを室内に持ち込まない、子どもが靴を履く際に座るなどの機能もあることから段差を残しておくという考え方もあります。

踊り場や手すりの設置などによる階段における転倒事故防止

階段での転倒は、大きなケガにつながります。階段の傾斜を緩め、転落を途中で止めるために、階段に踊り場を設置するとともに、子どもが利用しやすい高さへ手すりを設置するとよいでしょう。

子どもの危険箇所進入などによる不慮の事故を防止する

★ 危険箇所へのチャイルドフェンス等の設置

子どもにとって、台所は、火を使った調理時の火傷や、鋭利な調理器具の落下によるケガの危険があります。浴室においては、水をはった浴槽への転落による溺水の危険があります。いずれも大きな事故になることが多く、このような危険箇所については、チャイルドフェンスを設置しましょう。扉であらかじめ仕切られている場合には、乳幼児の手の届かない高い位置への鍵の設置により対応できます。

台所や浴室以外でも、転落の可能性がある階段やバルコニー、集合住宅における設備機器類置き場など、子ども一人で進入した際に、危険が伴うと考えられる場所においては、同様の対策を行いましょう。



チャイルドフェンス

★ コンセントの高い位置への設置、カバーの採用など安全性への配慮

コンセントにおいては、子どもがプラグの差し込み口を濡れた手で触ったり、金属などを差し込んだりすることで感電する事故がおきます。このような事故を防止するため、コンセントの高い位置への設置又は扉つきコンセントを採用するとよいでしょう。ただし、高い位置へのコンセント設置は、足をひっかける原因にもなるので、使う目的に応じて位置を調整しましょう。

既存のコンセントについては、コンセントカバーを設置することで対応できます。



コンセントカバー

★ ドア等による指挟み防止

ドアの蝶番においては、子どもが指を挟みこむ事故がおきます。指を挟みにくい形状の建具を採用しましょう。既存の扉においては、取り付け式の指挟み防止グッズなどを利用するとよいでしょう。引き戸においても、全開にした際に指を挟まれないよう、戸尻にストッパーを設置するとよいでしょう。

熱くなりにくい設備の採用やコンロへのチャイルドロックなど火傷の防止

熱を持った水栓金具などの設備への不注意な接触や、コンロなどへのいたずらによる不慮の発火などで、子どもが大きな火傷を負うことがあります。熱くなりにくい水栓金具を採用し、コンロなど火をともし設備については、チャイルドロックのついているものを採用するとよいでしょう。

★ 転落危険箇所における手すりの設置及び足がかりを生じさせない工夫

窓、バルコニー、共用廊下、外に開放されている共用階段など、転落のおそれのある箇所には落下防止の手すりや壁を設置しなくてはなりません。壁については、足がかりの生じない壁仕上げ等を行いましょ。ただし、外が見えないと、子どもが気になってよじ登ろうとするため、目の細かい格子やガラスを採用するなど、外が見える工夫をした方がよいでしょう。

また、落下防止手すりの周辺においては、足がかりとなるような物を置かないように注意することも大切です。

コラム キッズデザイン賞の取り組み

子どもたちの安全安心と健やかな成長発達を目指したデザイン“キッズデザイン”の推進・普及を目指し、NPO キッズデザイン協議会と経済産業省が連携して、企業や自治体等の製品・コンテンツ・活動・リサーチなどに対して顕彰を行っています。



2007年夏に第1回審査が行われ、287点の応募があり、そのうち121点が受賞し、右上のキッズデザインマークの使用が認められました。

第1回キッズデザイン大賞は、幼稚園・保育園で起こった子どもの事故情報を収集し、周知する取り組み(株)ジャクエツ、「安全な子ども環境への取り組み」が選ばれ、建築・空間デザイン部門の住宅においては、子育て世帯向けとして開発された住宅(ミサワホーム(株))「GENIUS Link-Age」、積水ハウス(株)「キッズでざいん」が選ばれました。

今後は、子どもを対象とした製品のみならず、大人が使う製品においても、子どもの安心・安全対策が行われているデザインについて、顕彰していく考えです。

キッズデザイン賞を主催しているNPOキッズデザイン協議会は、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達が見込まれる社会づくりを目指し、企業・団体が自主的に業種を超えて集い合う場として設立、2007年7月現在で、48企業、6団体、9自治体が参画しています。協議会をきっかけとした異業種同士のタイアッププロジェクト等が行われ始めており、今後の取り組みが期待されます。

周辺の交通量があまり多くない

子どもが一人で外出するようになると、交通事故の危険が出てきます。特に交通量の多い道路においては、その危険性が高くなることから、住宅の立地は、周辺の交通量があまり多くない場所を選定するとよいでしょう。

周辺の道路において歩車が分離されている

車が通る道の脇を、子どもを連れて歩いたり、ベビーカーを押して歩いたりするのは大変危険です。周辺の道路において歩車が分離されていることが重要です。

地域住民や保護者による交通安全活動がある

県や市町村から委嘱される交通指導員や、保護者が行う登校時の交通安全当番など、地域住民が参画する子どもの交通安全活動があるとよいでしょう。

子ども安全マップ等を利用する・作成する

地域の子どもの安全マップがあると、交通事故や不審者の発生状況、交通量や見通しの悪い場所、暗がり、転落や滑落が起きそうな湖沼・側溝・崖などを確認できます。マップがない地域では、地域の方と協力して作成するとよいでしょう。

公園や学校等が地域から温かく見守られている

見通しが良い公園や学校は、地域住民や職員の視線が届き、防犯機能があると言われています。また、公園や学校など、子どもが活動する場所が、地域住民の憩いや活動など日常の場になると、地域住民が温かく子どもを見守ることを促します。集合住宅の棟に囲まれたスペースも、みんなの目が届くような配置や設計とし、安心して子どもが遊ぶことのできる空間とすることが重要です。

(2) 犯罪を防ぎ、災害に備える

近年子どもを狙った犯罪が多発しているほか、この地域においては東海・東南海地震の発生も危惧されています。

不審者の侵入を防ぐ設備の設置などを行うとともに、災害時において子どもが無事に避難できるよう対策が求められます。

ポイント

不正侵入を防止する

- 各住宅玄関におけるテレビドアホンの設置
- ホームセキュリティシステム等の緊急通報システムの設置
- 屋外灯の各所への配置
- オートロック、防犯カメラ等の設置

地震・火事などに備える

- ★ 家具の転倒防止、収納扉などへのロック機能の設置
- 子どもの思わぬ使用に対応した火災警報器、ガス漏れ警報器の設置
- 集合住宅の避難経路における子どもに使いやすい建具の採用

...すぐに対応できる内容を含む項目

不正侵入を防止する

各住宅玄関におけるテレビドアホンの設置

子どもが一人で家にいる際の来訪者への対応は親にとって不安な要素となります。来訪者の顔を確認することのできるテレビドアホンを設置するとよいでしょう。

ホームセキュリティシステム等の緊急通報システムの設置

子どもが一人で家にいる時に万が一何か起きた場合、ボタンを押すことで親やセキュリティ契約会社へ通報されるシステムを導入すると、より安心することができます。

屋外灯の各所への配置

玄関周辺が暗いと死角となり、犯罪の可能性が高くなります。また、帰宅時間が遅くなる子どもが増えていることから、屋外灯を適切に配置し、玄関まわりを明るくした方がよいでしょう。

オートロック、防犯カメラ等の設置

集合住宅の共用部分は死角が多く、子どもを狙った犯罪がおこりやすい場所です。玄関においては、不特定多数の利用者が出入りするため、オートロックシステムを採用することが大切です。また、集合住宅のエレベーターや共用廊下の死角になりやすい場所においては、防犯カメラを設置するとよいでしょう。

県では、愛知県安全なまちづくり条例に基づき、住宅に関する防犯上の指針を定めていますので、これを参考にするとよいでしょう。

★ **家具の転倒防止、収納扉などへのロック機能の設置**

震災時の家具の転倒や、収納扉が開くことによる中身の飛び出しなどで、小さな子どもの生命に危険を及ぼす可能性があります。

ウォークインクローゼットなどの造り付け家具を採用するとともに、購入家具についても家具を壁に固定したり、転倒防止ポールを設置したりするなど、家具の転倒防止措置をほどこしましょう。収納扉等には、震災時に扉が開かなくなるロック機能付きの扉を設置するとよいでしょう。既存の収納扉等においては、開放防止用金具などを取り付けることで対応できます。

子どもの思わぬ使用に対応した火災警報器、ガス漏れ警報器の設置

子どもの思いもよらない形での火やガス器具の使用にいち早く気づくためにも、火災警報器、ガス漏れ警報器の設置を行いましょう。

集合住宅の避難経路における子どもに使いやすい建具の採用

災害は突然おこるため、子どもと親が近くにいるとは限りません。集合住宅においては、子どもが自力で避難できるよう、避難経路にある建具はなるべく子どもに使いやすいレバー式又は、プッシュハンドル式のものを採用しましょう。

(3) 子どもを見守る

子どもと親にとって安心な生活をしていくために、親が子どもの様子を敏感に感じ取ることが必要です。子どもを取り巻く不慮の事故や犯罪は、大人の視線が無い場所で起きていることが多くあることから、子どもを見守るための住宅内及び周辺環境における工夫が求められます。

ポイント

子どもへの見通しを確保する

- リビングやダイニングが見通せるキッチンの採用
- 閉じ込め防止のため外側から開錠できる鍵の設置
- 常駐の管理人の配置

まわりの環境

- 通学路上に危険な場所が無い
- 近所の人子どもに注意しやすい環境がある
- 地域で子どもを見守るしくみがある
- 警察署・駐在所・こども 110 番の家等が近くにある

子どもへの見通しを確保する

リビングやダイニングが見通せるキッチンの採用

幼少期においては、親は子どもから目を離すことができません。家事をしながら子どもを見守るために、オープンキッチンやカウンターキッチンなどを採用するとよいでしょう。

閉じ込め防止のため外側から開錠できる鍵の設置

トイレや浴室など鍵のついている場所においては、子どもが開け方が分からなくなったり、中でケガをした場合に危険な状況になります。扉に鍵をつける場合には、外側から簡単に開錠できる鍵を設置しましょう。

常駐の管理人の配置

絶えず大人の目がある場所は子どもにとって安心です。集合住宅においては、管理人が常駐しているとよいでしょう。

まわりの環境

通学路上に危険な場所が無い

通学路は、毎日子どもが使用する道のため特に配慮が必要です。歩道の有無や飛び出しがちな場所の確認、人通りの少ない道や風紀の悪い場所、転落の危険のある場所、大雨時に雨水がたまりやすい場所など、防犯・事故防止の視点から、危険箇所が少ないことが理想です。

近所の人子どもに注意しやすい環境がある

普段から親子で、近所の人とあいさつをしたりイベント等に参加するなどの交流があり、子どもが危ないことをしている、不審者が近寄っているなど、危険な状況にあるときに、注意や声がけをしてもらえる環境があるとよいでしょう。

地域で子どもを見守るしくみがある

自治会、ボランティア団体、子ども会、NPO法人などで、子どもの登下校の見守り、防犯パトロール、不審者情報の提供、防犯意識を高めるイベントなどが地域で行われています。また、地震や災害に対応するために地域で自主防災組織が組織されているところも多くあります。

警察署・駐在所・こども110番の家等が近くにある

子どもが危険な目にあった場合、すぐに駆け込める警察署や駐在所が近くにあるとよいでしょう。また、多くの自治体で、緊急時に駆け込める家や店舗等に「こども110番の家」を指定しています。これらのマップがあると安心です。

コラム 子育て・子育て世代の支援拠点（小松尚）

公営住宅に入居する世帯の多くは、住処としての住宅とともに落ち着いた生活をするための支援を必要としています。子育ての点では、片親の子どもの見守りや虐待、ネグレクトといった問題を引き起こさないための第三者的支援が求められています。

2006年度に愛知県で行われた「県営住宅子育て支援モデル事業」は、地域のネットワークで親と子どもを見守り、安定した生活の実現を支援するための仕組みづくりと空間づくりを試みた、先進的で意義のある取り組みでした。

生活上の助けを求めている住民のために、日常的に開かれていて、温かく迎えてくれる場所や人が必要です。これは、予約をして鍵を借りて使う現在の集会所を見直すきっかけになります。比較的ゆったりと確保されている屋外空間も、子育て・子育てのための重要な場所として改めて見直したいものです。

公営住宅入居者が自らこのような体制や場所をつくっていくことは困難です。周辺の有志やNPOなどの支援が必要になります。この連携は公営住宅の孤立を防ぎ、地域の一員になっていくきっかけづくりになると考えられます。

(4) 健やかに暮らす

家族が楽しく安らいで暮らすためにも、住み心地の良い環境をつくることが大切です。子どもは大人よりも体が小さく弱いため、より健康に配慮した建材や設備を採用しましょう。また、日当たりや風通しなど、まわりの環境に配慮することも快適に暮らすためには大切なことです。

ポイント

健康へのやさしさに配慮する

- ホルムアルデヒド対策が行われている建材や建具、家具の採用
- 住宅内の温度差への配慮

採光や風通しが良い

- 風通しに配慮した設計
- 採光のとれる大きな窓やインナーバルコニーの採用

まわりの環境

- 都市計画により居住環境が保全されている
- 日当たりや風通しへの配慮がある
- ★ 敷地内の緑化を推進している

...すぐに対応できる内容を含む項目

健康へのやさしさに配慮する

ホルムアルデヒド対策が行われている建材や建具、家具の採用

シックハウス症候群への対策については、建築基準法の改定により、平成 15 年 7 月以降に着工された建築物から、ホルムアルデヒドを発散する建材などについて、発散量により使用の禁止や使用の制限が行われています。子どもが健康に育つ環境をつくるため、よりホルムアルデヒドの発散量の少ない建材や建具を採用するようにしましょう。

また、家具については、造り付け以外は建築基準法の規制の範囲ではないため、購入の際には、ホルムアルデヒド対策について確認するようにしましょう。

住宅内の温度差への配慮

暖かい部屋から寒い浴室へ、暖かい浴室から寒い洗面室へと移動する際に温度の変化で子どもが風邪をひく可能性があります。高断熱、高气密の住宅設計を行ったり、温度が一定に保たれない浴室や洗面室においては、暖房を設置するとよいでしょう。

◎参考値：ホルムアルデヒド対策

改定建築基準法では、JIS・JAS規格の無等級の使用禁止、F☆☆、F☆☆☆の使用面積の制限を行っています。子育て世帯に適した住宅としては、F☆☆☆☆の建材を採用するようにしましょう。

JIS、JAS 規格

対応する規格	建築材料の区分	ホルムアルデヒドの 発散速度	使用制限
F		0.005mg / m ² h以下	制限なし
F	第3種ホルムアルデヒド 発散建築材料	0.005mg / m ² h超 0.02 mg / m ² h以下	使用面積を制限
F	第2種ホルムアルデヒド 発散建築材料	0.02 mg / m ² h超 0.12 mg / m ² h以下	使用面積を制限
無等級	第1種ホルムアルデヒド 発散建築材料	0.12 mg / m ² h超	使用禁止

測定条件：温度 28℃, 相対湿度 50%, ホルムアルデヒド濃度 0.1mg/ m³ (= 指針値)

日本壁装協会では、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、塩化ビニルモノマー、TVOCなどの規制値を盛り込んだ自主基準ISM（インテリア・セーフティ・マテリアル）を定めており、これを満足する製品にISMマークが表示されています。国における規制の変遷を受けて基準の改正が行われ、平成19年から新たな基準における審査、新たなISMマークの表示となっています。



ISMマーク
(平成19年～)

対象	ISMの基準値(平成19年現在)
ホルムアルデヒド	5 μg/m ³ ・h 以下
アセトアルデヒド	10 μg/m ³ ・h 以下
塩化ビニルモノマー	0.1mg/kg 以下
TVOC	100 μg/m ³ ・h 以下
その他、VOC（トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、パクジクロロベンゼン、テトラデカン）重金属（バリウム、鉛、クロム、アンチモン、ヒ素、カドミウム、水銀、セレン）についても安全基準を設定している。	

採光や風通しが良い

風通しに配慮した設計

近年、アレルギーを持つ子どもが増加しています。採光や風通しを良くし、ダニなどの発生を防ぐことが大切です。風通しに配慮した設計を心がけましょう。

なお、シックハウス対策の一環で平成15年7月以降に着工された建築物から、24時間換気システムなどの換気設備の設置が義務付けられています。

採光のとれる大きな窓やインナーバルコニーの採用

大きな窓にして採光をとり、開放的な空間をつくることで、明るくのびのびした子育て環境をつくるとよいでしょう。バルコニーについては、イスや机などを置き、食事などができるインナーバルコニーを採用するのもよいでしょう。

都市計画により居住環境が保全されている

用途地域などの都市計画は、その地域の将来の姿を現しています。都市計画区域内では、低層の住居に限定されている地域、中高層の住宅が建設できる地域、商工業が立地できる地域、都市化が制限される地域等が設定されており、日照、まわりの雰囲気、まちの利便性に深く関係します。また、地区計画等により特別な規制がかかっている場合もあります。住宅の立地選定にあたっては都市計画規制に十分配慮しましょう。

日当たりや風通しへの配慮がある

日当たりや風通しは建物のまわりの環境が大きく影響します。1日を通して、また季節を通しての影響を確認することが必要です。また、樹木やルーバー等によりうまくコントロールすることも有効です。

★ 敷地内の緑化を推進している

戸建て住宅では庭の緑化や生け垣など、集合住宅においては、敷地内植栽、屋上緑化、壁面緑化など、敷地内に緑地を設置することで景観を整え、住宅・住環境にうらおいを与えましょう。

コラム 子育て世帯に適した集合住宅の規模と超高層集合住宅の子どもへの影響

子育て世帯に適した集合住宅の規模については、家族間のコミュニティ形成や、共有スペースの効率的な利用、子どもへの見守りの観点から、1棟あたりの戸数（相互接触のあるグループの家族数）は、30～35戸を越えるのは望ましくないという指摘もあります。（居心地のよい集合住宅～子どものための住環境デザイン・ガイドライン～/パンクーパー市都市計画局）

また、超高層集合住宅における子どもへの影響については、高層階に住む子どもにおいて、屋外遊び日数が減るという調査結果も出ています。地上の遊び場に対し母親の目の届かないことによる犯罪や、団地内で子どもが迷子になることへの不安が原因とされています。こうしたことから、超高層集合住宅においては、子育て世帯について階下を優先した方が良いという指摘もあります。（超高層集合住宅の可能性と問題点/日本建築学会建築計画委員会主催討論会）